

Ⅰ 保育の計画性

		評価項目	◎	○	△	×	計
1	①	園の保育理念や教育・保育方針を理解し共感している。	21%	79%	0%	0%	100%
	②	園の方針、園長の考えについて園長や副園長・主任保育士と話し合い保護者に説明できる。	13%	47%	38%	3%	100%
2	①	幼保連携型認定こども園教育・保育要領を理解し、子どもの姿や環境の構成、保育者との係わりなど具体的な事例を思い浮かべることができる。	3%	70%	27%	0%	100%
3	①	園の教育・保育過程は、認定こども園教育・保育要領をふまえ、園の保育理念・教育・保育方針に従い編成している。	19%	55%	23%	3%	100%
	②	1年間の子供の成長を振り返り、教育・保育過程を評価している。	13%	68%	19%	0%	100%
	③	園の教育・保育過程は、社会状況や子どもの実態、地域性などを考慮しながら必要に応じて見直しを行っている。	16%	66%	9%	9%	100%
4	①	教育・保育計画は、子どもの興味や関心、これまでの生活や予想されるこれからの生活などを考慮し作成している。	23%	65%	6%	6%	100%
	②	行事は、子どもの生活上の意義を十分検討したうえで、保育計画に組み入れている。	16%	68%	6%	10%	100%
5	①	教育・保育計画に基づいて、子どもが主体的にかかわりたくなるような美しい環境構成をしている。	16%	55%	26%	3%	100%
	②	楽しい雰囲気の中で、安定して遊び込めるように玩具や用具、素材など質・数量を配慮して環境構成をしている。	19%	68%	10%	3%	100%
	③	子どもの活動がより豊かになるように子どもの発想を柔軟に取り入れ、活動の展開に応じて環境の再構成をしている。	16%	77%	3%	3%	100%
	④	子どもの発達や生活を見通し、季節の変化に応じた環境構成をしている。	13%	71%	13%	3%	100%
	⑤	異年齢の子どもが自然に交流できるような環境構成をしている。	6%	52%	39%	3%	100%
6	①	自分の保育と評価・反省について、次の保育と計画に活かせるように行っている。	3%	71%	23%	3%	100%
	②	お互いに保育を見せ合い、検討し、評価反省を加え、子どもの生活と自らの保育につなげている。	6%	45%	45%	3%	100%

II 保育の在り方、3歳以上児への対応

		評価項目					
1	①	朝の登園時は特に視診を大切にして、子どもの体調が悪くないかを確認している。	60%	35%	5%	0%	100%
	②	体調が悪そうな時は、静かに寝かせたり検温をするなど適切な処理を行い、すぐに家庭へ連絡している。	79%	11%	11%	0%	100%
2	①	子どもの話をよく聞いたり、言葉にならない思いやサイン、その姿の中にある心の動きを推察し、基本的欲求が十分満たされるよう配慮している。	40%	55%	5%	0%	100%
	②	一人の子どもをじっくり見ながら、見えないところで活動し遊んでいる子どもについても、ある程度その活動の様子を推察することができる。	20%	65%	15%	0%	100%
	③	個々の子どもの発達の姿や課題について見通しをもって理解できる。	16%	74%	11%	0%	100%
〔心のよりどころとして〕							
3	①	子ども一人ひとりを観察し、ありのままの姿を受入れ認めるようにしている。	35%	65%	0%	0%	100%
	②	子どもとの温かなやりとりやスキンシップを常に心掛けている。	62%	38%	0%	0%	100%
	③	子どもの話をよく聞くようにしている。	43%	57%	0%	0%	100%
	④	“一人ひとり”と“みんな”の関係を常に考え、クラス集団をまとめている。	16%	74%	11%	0%	100%
〔遊び・活動の援助者として〕							
3	①	子どもが遊びや活動を深めていくためのヒントやアイデアを提供している。	20%	60%	20%	0%	100%
	②	子どもをほめたり、励ましたり、目当てを持たせるような言葉かけをしている。	35%	60%	5%	0%	100%
	③	禁止、命令、行動を急がせたり、自信を失わせるようなことばや態度はできるだけ控えている。	20%	50%	30%	0%	100%
〔その他〕							
3	①	子どもの家庭環境や、これまでの成育歴などを考慮しかかっている。	26%	68%	5%	0%	100%
	②	障がい児が入園した時、個別的対応やクラスの子どもとともに育ち合える保育を積極的に進めるように考えている。	11%	74%	16%	0%	100%
4	①	クラスに関係なく、その場にいた保育者が適切な言葉かけや対応をしている。また情報を共有している。	24%	76%	0%	0%	100%
	②	保育上配慮を必要とする子供については、園の保育者全体で特によく話し合い、共通理解をもって工夫し対応するようにしている。	20%	65%	15%	0%	100%
	③	他クラスや異年齢の子どもたちと触れ合うよう、さまざまな工夫、保育の形態を取り入れている。	5%	63%	32%	0%	100%

III 保育の在り方、3歳未満児への対応

		評価項目					
1	①	朝の登園時は家庭からの連絡をもとに視診・触診をして、子どもの健康状態を確かめている。	64%	32%	5%	0%	100%
	②	体調が悪そうな時は静かに寝かせたり検温をするなど、適切な処理を行いすぐに家庭へ連絡している。	73%	23%	5%	0%	100%
	③	保護者から健康状態などの申し出を受けるなど、子どもの健康情報を共有し、アレルギー、熱性痙攣、脱臼癖などの既往症について把握している。	50%	45%	5%	0%	100%
	④	体重・身長などの測定を定期的に行い家庭に知らせるとともに、バランスの取れた発育が促されるように配慮している。	36%	45%	18%	0%	100%
	⑤	家庭と連携をとりながら一人ひとりに合わせて離乳食の移行を行い、様々な食品に慣れ、食への意欲を育てている。	38%	48%	14%	0%	100%
	⑥	睡眠が十分にとれるような静かな環境を整え、午睡の状態（呼吸・顔色・嘔吐・汗）、およびSIDS（乳幼児突然死症候群）のチェックを記録している。	36%	55%	9%	0%	100%
	⑦	一人ひとりの排泄間隔を把握し、その子の排泄リズムに合わせて、オムツ交換をしたり、トイレに促したりしている。	55%	45%	0%	0%	100%
2	①	子どもの話をよく聞いたり、言葉にならない思いやサイン、その姿の中にある心の動きを推察して受け止め、信頼関係を築いている。	36%	64%	0%	0%	100%
	②	一人ひとりの子どもの発達課題について見通しをもって保育している。	18%	77%	5%	0%	100%
		〔心のよりどころとして〕					
3	①	落ち着いた雰囲気の中で抱いたり語りかけたりして、子どもが人との関わりを楽しむことや心地よさを味わえるようにしている。	36%	64%	0%	0%	100%
	②	泣いたりぐずったりのサインを見逃さず、要求に応じた適切な対応をしている。	13%	87%	0%	0%	100%
			〔遊び・活動の援助者として〕				
3	①	子どもの心身の発達及び生活の連続性に配慮し、好奇心や発達を促す環境を整えて保育をしている。	23%	68%	9%	0%	100%
	②	自分を表現する力が十分でない子どもの気持ちをくみ取り、安心感と自己肯定感がもてるような言葉かけをしている。	30%	65%	4%	0%	100%
	③	禁止語を不必要に用いないようにしている。	26%	65%	9%	0%	100%
		〔その他〕					
4	①	乳幼児期は身体的条件や生育環境などの違いにより、一人ひとり心身の発達に個人差が大きいことを理解し関わっている。	50%	50%	0%	0%	100%
	①	保育者全員が情報を共有し、クラスに関係なく、その場にいる保育者が適切な言葉かけや対応をしている。	30%	65%	4%	0%	100%
	②	保育上配慮を必要とする子供については、園全体で話し合い共通理解をもって対応するようにしている。	30%	61%	9%	0%	100%
	③	他クラスや異年齢児との触れ合う機会がもてるように様々な工夫、保育の形態に配慮している。	14%	45%	41%	0%	100%

IV 保育者としての資質や能力・良識・適正

		評価項目						
		〔専門家としての資質や能力〕						
	①	保育にたずさわる者として、専門知識や技能を身につけている。	3%	82%	15%	0%	100%	
	②	保育者に対し、子どものことや自分の保育のことをわかりやすく話すことができ、保護者との信頼関係を作ることに努めている。	13%	74%	13%	0%	100%	
	③	保育者並びに他職員が仕事の手順を考え、能率よく行っている。	9%	82%	9%	0%	100%	
	④	保育者の人間性が子どもたちに影響を与えることを自覚している。	85%	15%	0%	0%	100%	
		〔良識とマナー〕						
1	①	子どもや保護者との対応には、公平さをかかさないうようにしている。	56%	44%	0%	0%	100%	
	②	朝と帰りのあいさつは明るく親しみを込めて行い、感謝の気持ちを言葉などで表している。	73%	27%	0%	0%	100%	
	③	園の消耗品や材料は節約して使い、私用にっていない。	97%	3%	0%	0%	100%	
	④	園の規定にのっとり、服装、髪型、身だしなみなど、清潔感のあるものを心がけ、安全性にも気を付けている。	79%	21%	0%	0%	100%	
		〔義務〕						
	①	玩具、遊具の管理、点検、園内外の清掃や整理整頓を実行している。	36%	64%	0%	0%	100%	
	②	締切のある仕事や提出物の締切日、会議の打ち合わせの時間をきちんと守って+A121:A143いる。	48%	48%	3%	0%	100%	
	③	他者の意見を素直な気持ちで聞き、自分の意見を述べるができる。	12%	76%	12%	0%	100%	
	④	子どものこと、クラスの出来事などで必要なことはチーフや園長、主任に報告、連絡、相談している。	66%	34%	0%	0%	100%	
2	③	当番や役割による仕事を理解し確実にしている。	53%	41%	0%	6%	100%	
	④	上司の指示、命令には責任をもって実行している。	70%	30%	0%	0%	100%	
	3	①	子どもや教育・保育に関する情報を日ごろから得ようとしている。	28%	63%	9%	0%	100%
		②	社会情勢や季節の変化などを感じ取る感受性を大切にしている。	18%	76%	6%	0%	100%

V 保護者への対応・守秘義務

		評価項目					
1	①	一人ひとりの子どもについて、家庭での養育方針などを把握している。	0%	71%	29%	0%	100%
	②	クラスだよりなどで保育実践の内容や意図・クラスや子どもの様子を、写真やイラストなどを活用してわかりやすく伝える工夫をしている。	34%	48%	10%	7%	100%
	③	個々の子どもの様子は、直接保護者と話をしたり、連絡帳などを使って伝えあっている。	45%	45%	10%	0%	100%
	④	保育参観や保護者面談を行い、子どもについて保育や家庭でのあり方について共通理解を得るよう努めている。	17%	53%	20%	10%	100%
	⑤	定期的にアンケート等にて保護者の要望を聞き、子どもにとってよりよい環境づくりに努めている。	0%	37%	37%	27%	100%
	⑥	保護者との情報交換の内容を必要に応じて記録している。	17%	50%	27%	7%	100%
	⑦	子育てや就労を支えるために、保護者の気持ちに配慮しながら接するように努めている。	42%	48%	10%	0%	100%
2	①	保護者からの様々な訴え、要望、意見については安易に受けたり断ったり無視したりしないで、園長等に報告や相談をしている。	58%	35%	6%	0%	100%
	②	必要な場合は、自園の苦情解決システムについて保護者に説明できる。	6%	63%	13%	19%	100%
3	①	職員や園の批判を軽はずみにしたり、プライバシーについて他へ漏らしていない。	94%	6%	0%	0%	100%
	②	秘密情報（保護者・園児等に関する個人情報、および園の運営上の情報、保育技術・保育計画等の情報）については園長の許可なく使用、開示、漏洩していない。	97%	3%	0%	0%	100%
	③	秘密情報の記録が破損、改造されないように管理している。	94%	6%	0%	0%	100%
	④	秘密情報の所属は園または法人にあることを認識し、書類、電子データは持ち帰らないようにし、どうしても必要な場合は持ち出し許可を園長から取っている。	81%	19%	0%	0%	100%
	⑤	秘密情報の書類、電子データのコピーは園長の承認を受けた物のみ、必要最小限にし、必要がなくなった場合は適切に処分している。	90%	10%	0%	0%	100%
	⑥	秘密情報について、新たに知り得たことについては、直ちに園長等に報告している。	87%	13%	0%	0%	100%

		評価項目					
4	①	正しい日本語、丁寧な言葉と敬語を用いて話しかけ、相手の話も落ち着いてしっかり聞いている。	19%	69%	13%	0%	100%
	②	親しくなったからといっても、友達同士のような話し方をしていない。	53%	44%	3%	0%	100%
	③	電話では、簡潔に要領よく対話することを心がけている。	41%	52%	3%	3%	100%
	④	保護者からの依頼や伝言等については、メモをするなどきちんと対応している。	47%	44%	9%	0%	100%
	⑤	長期の欠席や入院等の場合には、園やクラスの様子を伝える工夫をしている。	29%	39%	25%	7%	100%
	⑥	保護者の国籍、思想、宗教により、また子どもの性差、障害、個性差によって、区別、差別していない。	91%	9%	0%	0%	100%
5	①	保護者からクレームがあった場合は、まず謙虚にその話を聞き、園長等に連絡、報告、相談している。	73%	27%	0%	0%	100%

VI 保育者の専門性に関する研修・研究への意欲・態度

		評価項目					
1	①	研修会や研究会には自己課題をもって参加し、事前にその内容を確認したり自分なりの考えをまとめたりしている。	19%	55%	19%	6%	100%
	②	自分の保育については自己課題をもって計画と反省を行うとともに、保育のあり方や悩みについて他保育者や主任、園長と話し合っている。	3%	61%	26%	10%	100%
2	①	園の玩具や室内・園庭遊具について、その特徴や基本的な使い方を知っている。	21%	76%	3%	0%	100%
	②	園の玩具や室内・園庭遊具について、どんな使い方をするのか、どのような使い方が危険か予測できる。	39%	61%	0%	0%	100%
3	①	園舎の構造や保育室の位置・大きさがどのような教育的な意味をもつか理解している。	6%	61%	33%	0%	100%
	②	園庭や田畑、砂場、隠れ場所などの位置、広さなどがどのような教育的な意味をもつか理解し、保育に活かしている。	9%	39%	52%	0%	100%
4	①	子どもを取り巻く様々な状況について、背景・原因・実態はどうであるか興味・関心を持っている。	33%	61%	6%	0%	100%
	②	アレルギー・自立の遅れなど、最近多く見られる問題について興味・関心をもっている。	36%	61%	3%	0%	100%
	③	小学校との連携の意義やあり方について興味・関心をもっている。	28%	41%	28%	3%	100%
	④	子どもたちの安心・安全に関する危機管理について興味・関心をもっている。	36%	64%	0%	0%	100%
5	①	保育の専門知識や技能のほかに趣味や読書、ボランティア活動等にも関心がある。	25%	50%	25%	0%	100%

VII 地域の自然や社会とのかかわり

		評価項目					
1	①	地域の人々と親しく挨拶や会話を交わしている。	58%	39%	3%	0%	100%
	②	地域の自然や機関を指導計画の中で位置づけて活用している。	3%	31%	55%	10%	100%
	③	実習生を受け入れるときは、意義や方針を理解し、指導的立場で接している。	19%	52%	29%	0%	100%
	④	中高生の保育体験を受入れるときは、その目的や意義を理解・確認している。	13%	55%	29%	3%	100%
2	①	園の保育内容が小学校以降の生活や学習の基盤の育成につながることを理解している。	48%	48%	3%	0%	100%
	②	小学校の教育内容について理解するよう努めている。	16%	42%	42%	0%	100%
	③	卒園した子どもの情報を得るよう努めている。	16%	25%	53%	6%	100%
	④	小学校が、園での子どもの育ち等について、どのような情報を必要としているのか理解するよう努めている。	6%	55%	35%	3%	100%
3	①	畑で収穫した野菜で料理など、地域の気候を生かした保育を実践している。	16%	41%	41%	3%	100%
	②	高齢者との交流のために、デイサービス交流・行事への参加の呼びかけなど積極的に行っている。	3%	10%	58%	29%	100%